

## 平成29年度第11回霞ヶ浦自然観察会実施結果

「春を探そう！水路の魚とセンターいきもののお観察会」を実施しました。

開催日時：平成30年3月24日（土）午前10時00分～午後2時40分

開催場所：かすみがうら市戸崎の農業水路（午前）、センターいきもののお（午後）

参加者：55名

今年度最後の自然観察会は、すっかり春めいた陽気の中、春休みに入ったこともあって、たくさんの方々にご参加いただきました。

まず午前の部は、霞ヶ浦環境科学センターに近い農業水路での魚捕りと魚の観察を行いました。この水路は今年度第1回（昨年4月）にも観察を行ったところで、そのときは産卵のために大きなコイやフナが霞ヶ浦からこの水路に移動していました。今回はそれより1ヶ月ほど早いので、まだ大きな魚は入っていませんでしたが、この水路で冬を越した昨年産まれた魚たちをたくさん観察することができました。開始前はこれだけの参加者が小さな水路に一斉に網を出して、はたして魚は捕まるだろうかと心配していました。ところが、すぐにたくさんの魚や水生生物が集まり、どのバケツの中にも生き物で一杯になりました。一時間半の間に10種類を超える魚類のほかに、エビやヤゴなどいろいろな生き物が集まりました。参加者全員が自分たちで生き物を捕まえて、直に生き物と接することができました。最後に採集した生き物をみんなで観察して午前の部を終了しました。

午後はセンターいきもののおを中心に、水辺の生き物を観察しました。午後の主役はカエルの子、オタマジャクシでした。センターにある上池や水生植物の池では、毎年冬に職員が生き物に配慮した管理を行っています。それによって、徐々にニホンアカガエルやアズマヒキガエルの産卵数が増えてきました。ニホンアカガエルはすでにふ化してから2～3週間が経ち、元気に泳いでいます。アズマヒキガエルのほうはまだふ化して間がないため、まだ出てきた卵塊の周りでじっとしています。このとても小さいオタマジャクシがあんな大きな“ガマガエル”ことアズマヒキガエルの子ともであることにみなさんびっくりしていました。カエルが増えれば、カエルを食べる水鳥やヘビが増え、ヘビが増えれば、ヘビを食べるタカなどの猛禽類が増えていく。生き物が繋がっていることを全員で確認しました。

最後に5年間、霞ヶ浦自然観察会を担当していた私、福井ですが、新年度から、現在当センターパートナーの腰塚さんに霞ヶ浦自然観察会を引き継ぐことになりました。これまで霞ヶ浦自然観察会に参加されたみなさん、パートナーのみなさん5年間ありがとうございました。これからも霞ヶ浦自然観察会をよろしくお願いいたします。

環境活動推進課 福井正人

観察した主な生き物です。

ミナミメダカ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、ツチフキ、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、ヨシノボリ、ウキゴリ、ハクレン、ブルーギル、スジエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ、イトトンボの仲間のヤゴ、スクミリンゴガイ、サカマキガイ

観察会の様子の一部を御案内します。



当日はたくさんの参加者が集まりました。



本日の大物賞（ギンブナ）です。



ひと掬いでこれだけ捕れました。



みなさんで捕れた生き物を観察。



たくさんのオタマジャクシにびっくり！



ご参加ありがとうございました。